



# 大町労山だより

VOL1-NO9 2014. 12. 12 発

## 2014 年をふりかえる 谷口 伸二



正月は富士山の見える山へ!!

北アルプスもすっかり雪山に衣替えをし、2014 年もあと 20 日程度となりました。今年、1 月 5 日の『青春 18 キップで行く木曾路の旅』と 1 月 12 日の『富士山の見える山・竜ヶ岳登山』でスタートしました。

一般募集山行も 6 月の鍬ノ峰、10 月の京ヶ倉、ともに多くの一般参加者に山の楽しさと大町労山を知ってもらおう山行となりました。

個人山行も活発に行われ全員無事に年が越せることをうれしく思います。ただ、5 月のゴールデンウィークには奥穂南陵遭難事故がありました。計画の甘さ等あったと思いますが、大町労山の 3 人は元気に下山し、ある意味『頼もしく』感じました。女性の会員が 3 人も増え、例会の参加者も増えました。

小林会長から 3 月末に引き継いだ頼りにならない新米会長ですが、これからは会の仲間が楽しく山に行けるように。山の楽しさを多くの人に知ってもらえるように会を進めたいと思います。協力をお願いします。

来年もよろしく!!

## 2014 年の締めくくり 楽しく和やかに 忘年会



12 月 6 日(土)、2014 年を締めくくる忘年会が行われ、17 名が参加。谷口会長の挨拶・音頭による乾杯を皮切りに、新しく加入した会員の挨拶、各会員の自己紹介と続いて和やかな宴となり、1 年間の山行や次年度の活動の話しに花が咲きました。

また、機関誌担当の井川さん、石井さんから『ごんぞ』のゲラが出来上がったとの報告があり、見本誌が廻されました。

来る 2015 年は大町労山、および県連創立 50 周年の節目に当たる年であり、今後の発展に向けて決意を新たにしたい忘年会でした。

## 1 月会山行 富士の見える山 ~ 毛無山へ



西湖から毛無山へ ①~③~①



毛無山

## 天狗岳(12/14)・赤岳(12/23)・毛無山(1/4)へ

### 鷹狩山～元日登山・飯田線沿線ハイクも企画

#### 年末・年始の山行・行事を確認～12月拡大役員会

12月9日(火)の拡大役員会では、県連関連を含む年末・年始の山行・行事計画等について話し合い、下記の通り決定しました。出席者は8名。

#### 山行・行事計画…12月～1月

12月13日(土)；雪上訓練～みねかたスキー場 CL：鈴木

12月14日(日)；天狗岳 CL：鈴木 ※13日～14日：佐久山の会・天狗岳

12月23日(火)；赤岳 CL；勝野

1月1日(祝)；鷹狩山～元日登山 集合：山岳博物館P 5:30 CL：森田  
申し込み：31日21時まで。スノーシュー、ワカン、歩くスキー、ツボ足等  
※荒天時、CLは山博にいますが、参加・不参加は各自で判断して下さい。

1月4日(日)；1月会山行・毛無山～富士山の見える山へ CL：谷口  
去年の竜ヶ岳山行に準じた日程です。ふるってご参加下さい。

1月5日(月)；各駅停車でハイキング～飯田線・天竜峡へ  
締切：12月20日 キャンセルされる場合も青春18切符代金は頂きます。

1月13日(火)；拡大役員会

1月17日(土)～18日(日)；新年会 & 18日(日)；スキー  
場所；鈴木さん宅。18日のスキーは参加希望者で場所を決めます。

1月17日(土)～18日(日)；県連雪崩セミナー

1月25日(日)；県連スノーハイク  
スノーシュー、ワカン等で入笠山に登ります。※詳報別記

1月31日(土)；大町労山を知る会  
主として募集山行に参加された方を対象として、大町労山を知ってもらうための初めての試みです。スライドをつくるので山行写真をお貸し下さい

※12月の例会はありません。

その他；

12月に希望のあった黒斑山は1月に延期します。(日程未定)  
希望する山がある方は役員を通じて、または役員会、例会で提起して下さい。  
個人山行の予定がある方は連絡・呼びかけ・登山届をお願いします。

#### 山行報告…11月例会以後

10月20日(月)；阿弥陀岳 勝野 斉藤

10月30日(木)；赤岳 鈴木 白井

11月13日(木) 霧訪山：内藤・白井・鈴木

11月2日(日)～3日(祝)；米山 森田 他6

11月6日(木)；仏崎ゲレンデ 岩トレ 鈴木 白井 内藤 ※森田取材

11月13日(木)；霧訪山 鈴木 白井 内藤

11月16日(日)；裏妙義：内藤・横田・尾形・鈴木

11月22日(土)；天城山：尾形夫妻

11月23日(日)～24日(月)；立山スキー滑走 横田

11月30日(日)；立山スキー滑走 横田

12月6日(土)；県連救急講習会(救急・低体温症講習) 神津

12月6日(土)；忘年会 出席者17名

#### 1月25日 県連スノーハイク 実施要項

場所；入笠山(1955m)

目的；会員の交流

集合；富士見パノラマスキー場P AM8:30

日程；9:00 ゴンドラ乗車ー山頂駅発9:30ー10:00 マナスル山荘  
ー11:10 入笠山頂上ー11:40 大河原湿原ー13:10 マナスル山荘  
ー13:30 山頂駅ー14:00 ゴンドラ駅ー4:30 解散

対象；労山会員

装備；冬山装備一式 スノーシュー(ワカンも可) ストック  
地形図(2.5万図 信濃富士見・茅野)

費用；リフト代(片道400円)

申し込み先；県連組織部 元矢 則子氏(川西山の会) 携帯090-4460-1271

FAX:0267-53-5722 メール：[sakura12@sas.janis.or.jp](mailto:sakura12@sas.janis.or.jp)

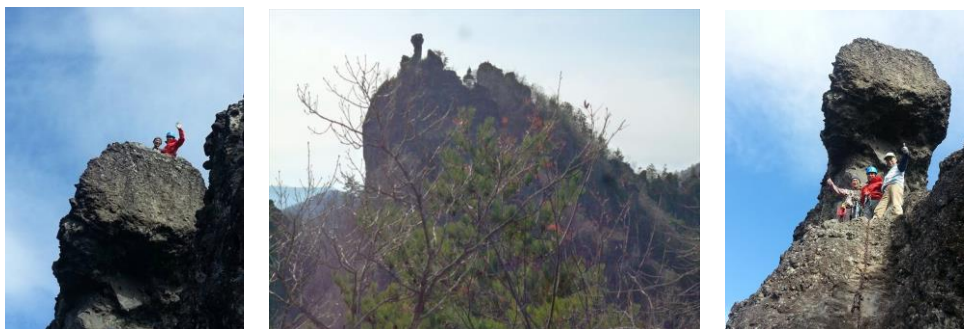
別紙申込書に必要事項記入の上、各会ごとにFAXまたはメールにて申し込みのこと

締切；1月18日(日) 必着。

※参加を希望する方は事務局へご連絡下さい。

## 山行記録 裏妙義 丁須の頭 11月16日

記録者；内藤雪絵 参加者；尾形、鈴木、横田、内藤



裏妙義の地図には、危険マークがたくさんですが、頼りになる先輩達と一緒にだし、岩トレも2回したッ！と ドキドキしながら参加しました。もちろん、念の為ヘルメットも着用です。

登 当日は天候にも恵まれ最高の山日和でした。

り始めの急登は、とにかくきつく、また落ち葉が多いので足元が見えず苦勞しました。

鎖場は、次々と現れると言った感じでとても多かったです。始めはビクビクしていた気もしますが、1つずつクリアしていくのが段々と楽しくなりました。下から見ると恐いくせに楽しい。鎖場、岩場、とってもよかったです！ 最高です!!

楽しんでるうちに、目標の丁須の頭へ。目の前には、表妙義の姿がかっこよく見えています。

そして数人が丁須の頭にチャレンジしていて、危ないのに恐くないの!? と思っていたら、鈴木サンと横田サンも登ってしまった!! 本当に凄い人達です。私は下から見ていただけでも、大満足でした!

ランチも晴天なので、ゆっくりと1時間くらいとったでしょうか。のんびり休んで下山です。

が、このコースがまたスリリングでした。ルートも不明瞭だし、落ち葉はラッセル、鎖が満載! アスレチック! 超楽しいです!!

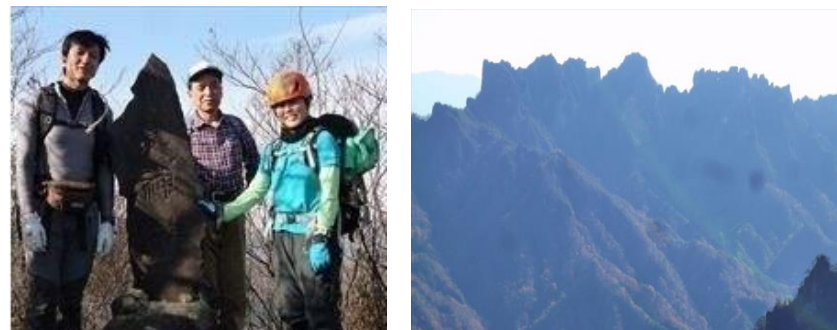
無事に下山できた時は、すでにまた来たい気分でいっぱいでした。裏妙義最高!

しかも帰りは、1度は行きたかった軽井沢のトンボの湯に寄ってくれて、汗を流し、なんて素晴らしい1日! 大満足の山行でした。

裏妙義、必ずまた行きます!

～私もひと言～ 鈴木 均

標高1000m前後、されど1000mの妙義です。鎖の連続、なかなかの山です。ハイライトは左写真の丁須岩。



## 新潟の山は面白い 頸城駒ヶ岳 鈴木 均

新潟県の山も高くはないが、おもしろい山が多い。しかも、そう易々の山ではありません。この頸城駒ヶ岳もその一つ。雨飾山のほぼ北にある山ですが、写真の通り、高さ150m、長さ200mほどもある大岸壁の真横を通過。かなり鎖が多く急な登りです。下りは鎖を持たないと危ない。2台の車で、もう一時間早く白馬を出れば、雨飾温泉まで縦走できたと後悔。地元のおじさんグループは、ビニール袋にきのこをどっさり詰めていました。田舎の人は、キノコや山菜には詳しいですね。

このルートは毎年、糸魚川労山が中心になって、倒木や落石の除去、土嚢積み、バンド内のロープの張り替えなどの整備を行っているということです。

大岸壁を仰ぎ見る



ロープのあるバンド



## 私の山歴 (6)

### 続・厳冬の北鎌から西穂へ 桑原 巖

1979年1月2日4時起床。朝食は今朝も餅ラーメン。今日の行程は大キレットを越えて穂高岳山荘まで、コース最大の難所だ。メンバー3人とも積雪期はまったく未経験のルートで期待と不安の入り混じった緊張感が漂う。

6時出発、小屋を出ると周囲はガスが立ち込めて全く視界がきかない。飛騨乗越から大喰岳、中岳へと進むうちに次第に風が強まり、吹雪模様の悪天となり、10時に南岳の避難小屋へ着いた頃には先へ進める状態ではなく、ここで天候の回復を待つことにする。小屋には同宿者はなく貸切状態で、夕方まで時間を持て余しながらものんびりと体を休ませた。夕食を済ませて戸外へ出てみると陽はすでに落ちて冷え込みは厳しかったが風は収まりガスもすっかり晴れあがっていた。西方目前に笠ヶ岳の秀麗な姿が茜雲のなかにシェルエットで浮かんでいる。明日の好天は約束されているようだ。8時消灯、今夜は寝心地がいいだろう。

1月3日、4時起床。朝食を済ませ身支度を整えて外へ出て見ると素晴らしいモルゲンロートだ。はるかに遠い八ヶ岳の上に周りの雲を真っ赤に染めて朝日が今まさに昇ろうとしている。その右手に富士山がそびえたち、穂高の峰々が輝き、振り返れば笠ヶ岳と黒部源流の山々が純白に輝いている。

7時出発。キレットへの下降の始まりだ。約300mの急下降でキレットの北の底へ降り立ち、そこからは両側が鋭く切れ落ちている岩稜が続き、右手には滝谷の岩壁が圧倒的迫力で迫ってくる。その岩壁に取りついている2人のクライマーの赤いヤッケが鮮やかだ。「飛騨泣き」の難所も無事通過して北穂直下の急な雪壁を喘ぎながら登ること約30分、11時北穂頂上到着。中々順調だ。ここからの眺望は素晴らしい。昨日から歩き続けた槍ヶ岳からの稜線が一望だ。加賀の白山も見える。南へ目を向ければ奥穂からからジャンダルムへ、そして最後の西穂まで稜線が連なり明日の行程への夢を駆り立てる。12時出発。15分程下った岩場で遭難者の救出作業のチームに出会う。既に死亡していた模様。そこから30分程下ると涸沢岳の鞍部、そこから涸沢岳への登りは急峻な雪壁混じりの岩場で最後の10mは鎖場だ。そこを抜けると頂上だ。ここから穂高岳山荘までは一下りだ。14時山荘到着。小屋の前に人影はない。冬季小屋には先着の2パーティーが8人で合計11人。小屋泊まりとする。今日の行程は緊張の連続で心身共に疲れた感じだ。夕食が済むと早々に寝袋に入った。

気は小雪混じりだ。これ以上悪くならなければよいと思う。奥穂の登りは出だしに梯子と鎖場が続くがその後は難なくすすみ頂上を踏む。7時半頂上。視界がきかないのですぐに出発、ここからの下りが馬の背を通る難所だ。ここでザイルを出して慎重にくだり小さなこぶを越えてロバの耳の科尔まで急下降する。ロバの耳は飛騨側を巻いてしばらく登ると稜線に出てじきにジャンダルムの科尔に着いた。ジャンダルムは巻いて登り9時10分頂上到着。相変わらず視界が悪いので10分程の休憩で天狗の科尔へ向かう。道は一度信州側へ出るがまた飛騨側へまわり天狗の科尔へ。到着10時。僅かな休憩で西穂へむかう。西穂へはまず間ノ岳への登りがある。途中上り下りの鎖場で鎖に助けられながら、3つのピークを越えて間ノ岳到着11時10分。簡単な行動食で西穂へ向かう。ここから西穂までは幾つものピークがあり、最後の急斜面でザイルを使い重いザックに悩まされながらようやく西穂高岳頂上へ到着。12時30分。西穂の頂上からはトレースがあり、独標を経て西穂山荘へと快調に下りそのままロープウェイ乗り場へ急ぎ、ロープウェイ最終便の搭乗者となり無事に新穂高へ下山して長い山行の終わりとなった。

#### 北鎌の歌+

- |  |   |
|--|---|
| 1 北鎌の尾根に咲く花は<br>あれは水色みやま苧環<br>朝日の中に花びらに光る露の玉   | 3 北鎌の尾根で見る夢は<br>明日は穂高かジャンダルム<br>遥かに遠く西穂へ続く岩の峰 |
| 2 北下の尾根に降る星は<br>あれはスバルかカシオペア<br>夜空に遠く果てもない光北斗星 |   |



西穂稜線に行く

1月4日、5時起床。朝食を済ませた後しばらく夜明け待ちだ。6時半出発、天

# 日向山

2014年4月20日(日)

記録者 土田幸男 同行者 1人(夫人)

労山の山行で、事前に『体調により登山口で合流』と連絡していました。7時に道の駅『松川』集合なので一応寄ってみました。行く人は2~3人と聞いていたし、天気も良くないので中止になったと判断してともかく出かけました。

道の駅『はくしゅう』で休憩し、矢立石へ行く道を教えてもらいました。林道を走りますが、途中で通行止め。4月25日まで入れないそうなので、Uターンしてバックで林道を上がり駐車しました。先着は2台で1台は家族4人で出発するところでした。2台とも山梨ナンバーです。

登山口から歩くと右に大きな岩があり、割れ目に木が生えています。もしかするとこれが『矢立石』かもしれません。

落葉松の落ち葉が敷き詰められたような道は足に優しく快適です。木段もありますが、階段と言うより斜面の一部になっていて気になりません。寒いのか時々樹上から氷が落ちてきます。天気はよくなく一面の霧ですが、天気がよかったら明るくて気持ちよさそうです。

多分登山口が0/10だと思いますが、約10分も歩くと1つづつ増えて行きます。4/10の辺りからいっそう山がよくなり、一つひとつの間隔も短くなったようです。

右にロボット雨量計があり、その先に三角点の表示があったので寄ってみました。ここが地図上の日向山山頂かもしれません。

登山道に戻って歩くと足元は白砂に変わりました。前方は霧で見通しはありませんが、多分山頂の西端、雁ヶ原に着いたようです。

霧でぼんやりとしか見えませんが、燕岳や鳳凰岳のような花崗岩らしき特異な突起が見えます。途中で追い抜いた4人家族も登って来ました。子どもは4才と6才の男の子で、お菓子を誘われて歩いてきたようです。この4人家族ともう1台の2人連れしか会わない静かな山で、これで景色が見えたら言うことはないのですが・・・。

霧は晴れそうにないので下ることにしました。ロボット雨量計を過ぎ本格的な下りとなるところでランニングの青年が飛ぶように登って来ました。喜代子氏が『3/10くらい下ったところで追い抜かれる』と言い、私は『4/10』と言いました。

この辺りから登ってくる人が多くなりました。『大人数なので〜』と道を譲られましたが、そのグループは15人ぐらいいました。その他、2人、4人と言うグループが登ってきます。登っている時は感じませんでしたが、意外と急坂です。

予想は喜代子氏の勝ちで、青年は3/10地点で走り下って来ました。その先も人は登ってきます。丁度頂上でお昼の時間になることでしょう。

登山口に近づくと、ヤシオツツジが咲いています。駐車した所にはさらに車が増え、『わ』ナンバーの車が『ガイド通りに来たのに・・・』と肩を落としています。道路のふくらみには駐車され、大半は地元山梨のナンバーですが、三重、柏、福島なんて言うのもあります。

帰りがけに予定通り道の駅『はくしゅう』で買い物をし、さらに信州葛木の道の駅に寄りましたが、『食堂はよくないし、お風呂も600円は高い』とそのまま走り、結局見つけたところは720円の塩沢温泉。喜代子氏は元を取るつもりなのか1時間40分も入っていました。

お昼は温泉のあおりを食い諏訪湖SAで軽く頂き、梓川のスマート出口から出て生協に寄って買い物して帰りました。

行程

自宅 6:55 — 7:00 道の駅『松川』 7:07 — 道の駅『はくしゅう』  
— 8:50 駐車場 9:05 — 登山口 9:10 — 10:25 ロボット雨量計  
— 10:30 三角点 — 10:35 山頂 10:48 — 10:55 ロボット雨量計  
— 11:30 『2/10地点』 — 11:45 登山口 — 駐車場 11:49  
— 道の駅『はくしゅう』 — 12:45 白州塩沢温泉 14:25 — 諏訪湖SA  
— 梓川出口 — COOP — 16:25 自宅



特異な花崗岩の山頂



晴れていけばこう見える

## 『ツッチーの引き出し』に期待!!

土田さんは登山を始められてからほとんどすべての山行を記録され、その数は700編にも及ぶとのこと。その記録集を(勝手に)『ツッチーの引き出し』と名づけ、思い出の山々を語って頂きましょう。次の記録にご期待下さい!!

## 山書縦走

宮島 順一

山書の収集に、のめり込んで早いもので43年。きっかけは松本市に『遠兵』という文具、書籍等を扱う店があり、そこで芳野（服部）満彦さんの著書『山靴の音』の限定本に出くわし、衝動的に購入した。その本には芳野さんの絵が挿し絵してあり、装丁も立派で本の魅力にひきこまれた。

その本を持って勤務先の写真店に寄ったところ、ご主人が『ちょっとその本見せて』とおっしゃり、若いころ上高地で芳野さんを撮影したネガを持っていると言って探してプリントして下さった。その写真を添えてお手紙を差し上げたところ、写真にサインと当時の記憶を書いた手紙、詩を同封して返送して下さいました。

高校2年生の時、生徒会の部室にマッターホルンの白黒写真が無造作におかれていた。迫力のある写真でサインも入っていたが誰も興味を示さず、誰もいないというので家に持ち帰って置いていた。そのサインが『芳野満彦』さんのものと気が付いたのは5年ほど後であった。その時の感動は今でも忘れられない。たぶんマッターホルンの北壁を登った時に誰かがサインをもらったのであろう。

たくさんの限定本のなかでも百瀬慎太郎遺稿集『山を想えば』もやっとの思いで購入した本の一つである。昭和37年発行で当時の頒価額は600円。それを古書店で何と6万円で購入した。100倍の価格であるが、今思うとどうしても書棚に並べたい思いに駆られたのであろう。装丁も素晴らしく、いまではなかなか古書店には出ない。

それから『槍ヶ岳乃美観』、明治39年に松本市の慶林堂高見書店から出版された菊版で天金がほどこされ、松本市博物館のガラスケースの中に置かれているほどの稀覯本で、手にすることはなかった本が、インターネットオークションに乗り、それも1000円と言う値段で落札。この本の価値が分からない方が出品したのであろう。今では何十万出しても手に入らない。

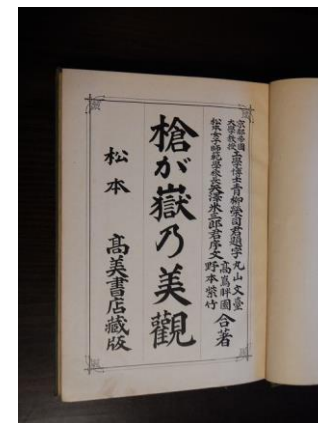
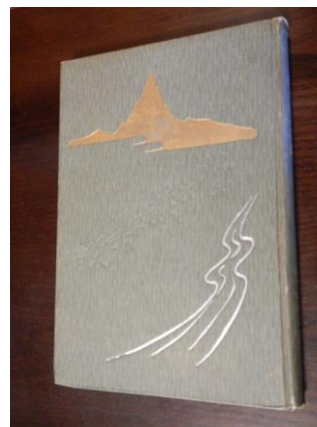
松本市で山書を多く扱っていたのは、日米書院、ブックス63、古書店では細田書店、慶林堂等で、毎週のように通ったものである。当時は結構、読み応えのある山関係の本が出版され、東京に行った際は神田の悠久堂書店・穂高書房等古書店を歩きまわったものだ。

現在のネット社会で活字ばなれのせい出版業界も不況であるし、残念ながら松本市では慶林堂のみ古書店を細々営業しているが、他の本屋は今はない。

自宅の本棚には約2000冊の山書が生活空間を圧迫するほど場所をとり置かれ

ているが、妻や子供たちは興味を示さないので行く末は大町山岳博物館の図書館に引き取っていただくようになるのであろう。それまではじっくり楽しもうと思う今日この頃である。

山書はエクセルデータですべて管理している。



さあ、雪だ！ 雪山だ！！



例年より少し早いのでしょうか、寒波が次々とやってきて、山は完全な雪化粧。スキー場も、次々とオープンし始めました。

今シーズンも、安全登山で雪山にチャレンジしましょう！！